

木の実草の実 Part 3

今年は冬鳥が少ないせいかな、目立つ木の実がいつまでも枝先に残っています。写真は知和大橋のほとりのトキワサンザシ。属名のピラカンサと言ったほうがわかりやすいでしょうか。



コウノトリが来ていた時、知和大橋の下流側の、今は水没している広場に、ピラカンサが長く帯状に茂っ

ていました。生け垣にしつらえてあったのかなと、かつてご近所にお住まいだった田原さんにうかがったところ、「あそこは田んぼじゃったよ」との意外なお答え。エッと驚いていると、「上に電線が架かっとなったがの」とのコメントが続いたので、納得しました。鳥が実を食べて、意図せずに条播きした結果だったのです。

さて、鳥に食べられることは疑いようのないピラカンサの実ですが、毎年 2 月頃まではたくさん残っているのが通例です。ある本によれば、あまり美味しくないなので、他の木の実が残り少なくなるまでは鳥も手をつけないとのこと。ためしに一粒食べてみました。少しの酸味と微かな甘み。薄味で、美味くはありませんが、特にまずくもありません。ある人によれば、何度か霜にあたらないければ、まずくて食べられないとのこと。こちらの説は、西洋梨が収穫後に冷温処理しないとまずくて食べられないという話もあるので、ありそうな気がします。秋のピラカンサの味見。これが、今年の宿題になりました。